

# 栗原地域だより

第 18 号

平成 27 年 3 月 2 日 発行

## 目 次

○栗原地域農業経営トップセミナーが開催されました	p1
○販売力向上セミナーを開催しました！	p2
○栗原ならではの「食のおもてなし」研修会で栗原の魅力を実感！	p2
○ガンカモ類の生息状況（渡来最盛期）調査の結果	p3
○多面的機能支払交付金を活用した取組みを紹介します	p4
○新たに 6 団体のスマイルロードサポーターを認定しました	p4
○平成 26 年度栗原市畜産講演会が開催されました	p5
○栗原のイベント情報（3 月・4 月）	p5
○農林産物の放射性セシウム濃度を検査し安全性を確認しています	p6

花山のミズバショウ



## 栗原地域農業経営トップセミナーが開催されました

北部地方振興事務所栗原地域事務所

2 月 12 日に、志波姫の「エポカ 21」で第 3 回栗原地域農業経営トップセミナーを開催しました。今回は「儲かる農業」をテーマに、一般社団法人全国農業青年経営会事務局大村裕氏による基調講演を行い、その後コーディネーターに中小企業診断士の本田茂氏、パネラーに大村裕氏と赤児生産組合の千田和男組合長、有限会社耕佑の伊藤秀太取締役部長を迎え、パネルディスカッションを行いました。



栗原地域農業経営トップセミナー

大村氏からは、「消費層の二分化（高所得、低所得）により農業生産方法も二分化（低コスト化、高付加価値な商品やサービス）が想定される。全国の農業者が分担して生産やリレー出荷を連携して行う、グループづくりが重要になる。」とのお話がありました。

後半のパネルディスカッションでは、主に「マーケティング」や「グループづくり（ネットワーク）」をキーワードに、千田氏からは、稲作の新しい取組として業務用の「萌えみのり」と「酒米」の契約生産・販売への取組、伊藤氏からは、地域農業が儲かるための「くりはらの未来を考えるワークショップ」の開催や、加工・販売など、今後の 6 次産業化への取組について提案されました。また、意見交換では、受講者から「農業者間の連携（ネットワーク）が今後、経営発展には必要である」との発言があるなど活発な意見交換となりました。

本セミナーを通して、農業経営者の新たな気づきと農業経営の発展への行動に繋がることに期待したいと思います。

■お問い合わせ 農業振興部 先進技術班 Tel：0228-22-9437

## 販売力向上セミナーを開催しました！

北部地方振興事務所栗原地域事務所

栗原地域は、米をはじめとして、れんこん、パプリカなどの野菜類、牛などの肉類、しいたけやなめこなどのきのこ類等、多種多様な食材の生産地です。

こうした食材の販路を拡大するためには、「商談会への出展」が効果的な方法ですが、成果を出すためには準備とノウハウが必要です。

このため、商談会等において、スーパーや百貨店、飲食店等のバイヤー（仕入れ担当者）に対し、効果的に売り込むための手法を学ぶ「販売力向上セミナー」を開催しました。



セミナーの様子

セミナーでは、農林水産省の6次産業化プランナーとして活躍されている、株式会社京王百貨店食品部マネージャーの野口喜弘氏を講師に招き、「バイヤーから見た、商談会における効果的なプレゼン手法」と題して、バイヤーが必要とする情報や、効果的な商品の見せ方・伝え方についてご講演をいただきました。野口氏からは「「ウチの商品はおいしい」だけではなく、どういう人が、どういう思いを込めて作っているのかを具体的に伝えることが大切」などという言葉があり、受講者は熱心に耳を傾けていました。

セミナーには、生産者や食品加工業者のほか、JA、関係機関等43名が参加し、質疑応答では「現在のトレンド」や「商談でのブースづくり」などについて、活発な意見交換が行われました。

当事務所では、地域食材の販路拡大に向け、今後も支援を行っていきます。

■お問い合わせ 地方振興部 商工振興班 Tel：0228-22-2195

## 栗原ならではの「食のおもてなし」研修会で栗原の魅力を実感！

北部地方振興事務所栗原地域事務所

栗原地域には、「自然・食材・ひと」という魅力的な素材がたくさんあります。これら素材にもっと磨きをかけ、発信するため、市内で農家レストラン、農家民宿等を開設している方などを対象に、栗原を訪れる人々を「食でおもてなし」するために必要な知識や技術を学ぶ研修会を開催しました。

講師には、調理師で健康インストラクターの菅原敏幸氏をお招きしました。菅原氏は市内鶯沢の出身で、現在は仙台市内の各種カルチャーセンターで健康講座や料理の講師として活躍されるとともに、各種講座の受講者など数多くの方を栗原に招いています。



栗原産サラダを添えたレンコンと沼エビのかき揚げ

1月22日に開催した第1回研修会では、「栗原に来たお客さんが何を体験し、食べたいと感じているか」や「栗原のどういうところが心に響いて、リピーターとなっているのか」についてお話を伺いました。

2月6日に開催した第2回研修会では、栗原の食材を使い、お客さんが喜ぶメニューや味付け、盛り付けを学びました。調理の基本や盛り付け方でおいしさや見た目も全く違うことを学び、受講者が互いに切磋琢磨できた研修会でした。

■お問い合わせ 地方振興部 商工振興班  
Tel : 0228-22-2195



弁当容器への盛り付け方も学ぶ

### ガンカモ類の生息状況（渡来最盛期）調査の結果

伊豆沼・内沼に今年も多くの冬鳥が飛来しています

北部地方振興事務所栗原地域事務所

栗原市には、秋から冬にかけて多くの渡り鳥が飛来します。特に、天然記念物で準絶滅危惧種の「マガン」は、全国に飛来する約80%が伊豆沼・内沼をはじめとする宮城県北部の湖沼で冬を越します。

県では、昭和44年度からガンカモ類の生息状況調査を、毎年3回（11月、1月、3月）実施し、渡り鳥の保護に役立っています。第2回目となる1月調査は、渡来最盛期となるため全国一斉に調査が行われました。

調査結果は、県全体の飛来数が昨年比に増加傾向にあります。栗原市では、ガン類は大幅に増えた一方で、ハクチョウ類とカモ類が減少しました。理由としては、寒波の影響で湖沼の凍結が進んだため、他の地域に移動したことが考えられます。

ガン類の生息が増加していることは、この地域の自然環境が豊かである証しです。渡り鳥が安心して越冬できる環境をこれからも守っていくために、環境美化の取組など、今後とも市民の皆さんのご協力をお願いします。



伊豆沼のガンの飛立ち

写真提供：宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

区 分		飛 来 数(羽)	前年同期 飛来数(羽)	前年比 (%)
ガ ン 類	県内全体	187,023	153,389	122
	栗原管内	59,969	33,610	178
ハクチョウ類	県内全体	21,219	21,039	101
	栗原管内	1,752	2,697	65
カ モ 類	県内全体	62,631	61,265	102
	栗原管内	1,793	5,252	34
計	県内全体	270,873	235,693	115
	栗原管内	63,514	41,559	153

調査日：平成27年1月15日(木)

■お問い合わせ 林業振興部 森林管理班 Tel : 0228-22-2133

## 多面的機能支払交付金を活用した取組みを紹介します

北部地方振興事務所栗原地域事務所

多面的機能支払交付金は、環境・生態系の保全など、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るため地域の共同活動に係る支援を行い、地域資源の適切な保全管理を推進するものです。

栗原市内では、この交付金の「農地維持支払交付金<sup>※1</sup>」と「資源向上支払交付金<sup>※2</sup>」の二つを活用して、市全体の農振農用地の51%にあたる8,954ヘクタールで、135組織（継続 111、新規 24）が水路・農道の保全活動や花の植栽による景観形成などに取り組んでいます。各活動組織からアンケートなどを実施した結果、本交付金が農地・農業用施設の適切な保全管理などに役立っているとともに、集落営農や担い手を育成するためにも必要であるとの評価を得ております。

当事務所と栗原市では、今後もこうした交付金を通して、地域の方々による地域資源を守る活動を支援していきます。



共同活動による水路の泥上げ



花の植栽活動

※1 農地維持支払交付金…農地法面の草刈など地域資源の保全活動に対する交付金

※2 資源向上支払交付金…地域資源の質的向上（水路等の軽微な補修、農村環境保全活動等）を図る共同活動や施設の長寿命化のための活動に対する交付金

■お問合せ 農業農村整備部管理調整班 Tel：0228-22-2398

## 新たに6団体のスマイルロードサポーターを認定しました

北部土木事務所栗原地域事務所

県では、県道の除草・清掃・緑化等の作業をボランティアで行い、良好なまちづくりに積極的に取り組む団体・個人を「スマイルロードサポーター」として登録し、活動を支援しています。今年度は、新たに以下の6団体を認定しました。

	団体名	路線名	活動延長(m)
1	(株)野口重機	(主) 築館登米線	680
2	(株)ウジエスーパー若柳店	(一) 若柳花泉線	90
3	小迫自治会	(一) 油島栗駒線	480
4	末野自治会	(一) 有壁若柳線	1,500
5	下文字下親睦会	(一) 文字上尾松線ほか	50
6	東北部品(株)設計部	国道398号	1,000

これら6団体が加わり、管内のスマイルロードサポーターは40団体となりました。地域の「顔」とも言える県道の美化には、地域の方々自らの活動が欠かせません。当事務所からも様々な支援をさせていただきますので、今後とも御協力をよろしくお願いいたします。

■お問い合わせ 行政班 Tel: 0228-22-2174 (佐藤)

### 平成26年度栗原市畜産講演会が開催されました

北部地方振興事務所栗原地域事務所

平成26年度栗原市畜産講演会が1月29日(木)に栗原市志波姫の「この花さくや姫プラザ」において開催(主催:栗原市農業振興協議会)され、畜産農家等130名が参加しました。

最初にJA全農畜産生産部審査役の澤明氏から、肉用牛の「高品質枝肉生産のための飼養管理技術について」と題して、飼養管理における飼料給与の注意点、配分のポイントなどについて講演していただきました。

続いて、JA全農ミートフーズ(株)肉牛生産流通アドバイザーの別府新介氏から、「消費地から要求される牛枝肉の特徴と今後の動向について」と題して、最近の傾向、またそれを踏まえて、牛を肥育する際の目指すべき枝肉重量などについて講演いただきました。

講演後には、栗原市畜産共進会肉牛の部でチャンピオン賞を受賞した鈴木則道さん(若柳)の牛肉が試食・販売され、消費拡大に貢献しました。



飼養管理技術について講演する澤氏



牛枝肉の今後の動向について講演する別府氏

■お問い合わせ 畜産振興部 畜産振興班  
Tel: 0228-22-2487

### 栗原のイベント情報(3月・4月)

北部地方振興事務所栗原地域事務所

日にち	イベント名	地域	日にち	イベント名	地域
3/8(日)	石尊さまの火伏せ祭り	若柳	4/5(日)	泉谷お屋敷まつり	瀬峰
3/8(日)	くりこま高原スノーヴィレッジ2015	栗駒	4/5(日)	金成春まつり(小迫の延年)	金成
3/29(日), 30(月)	高清水互市	高清水	4/13(月), 14(火)	岩ヶ崎互市	栗駒
1/24(土)~ 3/22(日)	スノーランドインハイルザーム栗駒	栗駒	4/18(土), 19(日)	若柳互市	若柳
2/1(日)~ 3/30(月)	みちのく風土館ひな祭り	栗駒	4/19(日)	若柳桜まつり	若柳
2/21(土)~ 3/3(火)	第16回くりこま商家のひな祭り	栗駒	4/25(土)	第29回せみね桜まつり	瀬峰
			4/29(水・祝)	第61回政岡まつり	一迫

■お問い合わせ 地方振興部 商工振興班 Tel: 0228-22-2195

農林産物の放射性セシウム濃度を検査し安全性を確認しています

(平成26年12月13日～平成27年2月17日) 北部地方振興事務所栗原地域事務所

12月13日から2月17日までの間に農林産物25点を簡易検査し、すべて食品の基準値(100ベクレル/kg)以下でした。また、基準値の2分の1(50ベクレル/kg)を超え、精密検査が必要になる食品もありませんでした。このように、市場に流通している食品は計画的に検査して安全性を確認しておりますので、安心してお召し上がりください。

☆簡易検査の測定値が基準値以下であったもの(12月13日～2月17日)

農産物				農産物			
品名	点数	施設	露地	品名	点数	施設	露地
かぶ	1	◎	—	チンゲンサイ	1	◎	—
キウイフルーツ	1	—	◎	つぼみな	3	◎	—
キャベツ	3	—	◎	にんじん	1	—	◎
こまつな	2	◎	◎	ねぎ	1	—	◎
さといも	2	—	◎	白菜	2	—	◎
じゃがいも	2	—	◎	ほうれんそう	2	◎	—
セロリ	1	—	◎	ゆきな	1	—	◎
たまねぎ	1	—	◎	わさびな	1	◎	—

◎：基準値以下

—：検査未実施

※放射性セシウム濃度基準値

食品群	基準値(1kgあたり)
飲料水	10ベクレル
乳児用食品	50ベクレル
牛乳	50ベクレル
一般食品	100ベクレル

詳しくは厚生労働省HPを  
ご覧ください。

([http://www.mhlw.go.jp/shinsai\\_jouhou/shokuhin.html](http://www.mhlw.go.jp/shinsai_jouhou/shokuhin.html))

■お問い合わせ 農業振興部 先進技術班 Tel: 0228-22-9437

発行：宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所 (地方振興部)

〒987-2251 宮城県栗原市築館藤木5-1 Tel: 0228-22-2195(直通) Fax: 0228-22-6284

E-mail: [nk-khsinbk@pref.miyagi.jp](mailto:nk-khsinbk@pref.miyagi.jp)

ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/9.html>

※次号(第19号)は5月1日発行予定です。